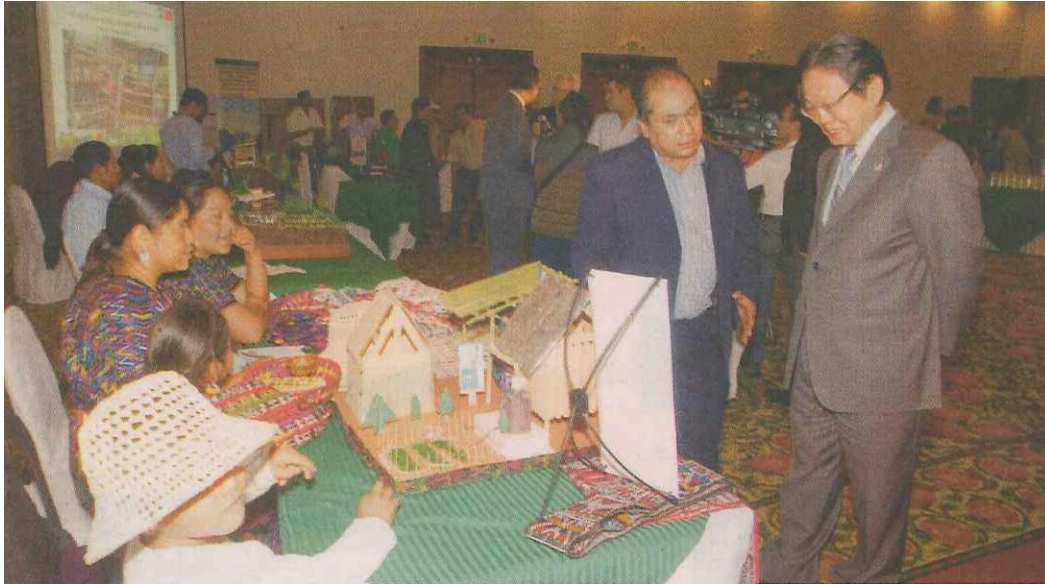


2016年4月14日付エル・ペリオディコ紙

「開発プロジェクトにより1,647世帯が裨益」（仮訳）



14日、川原英一日本国大使は開発プロジェクト発表会を訪れた。

250万米ドルに上る日本社会開発基金による世界銀行プロジェクトによりグアテマラ3県における農民は過去二年間に亘り生活水準を改善した。

川原英一日本国大使は（4月14日）、2013年にグアテマラ3県において開始され1,647世帯が裨益する、食糧安全及び気候変動への対応に関するプロジェクト（グアテマラ地域森林団体 Utz Che'が管理）結果を発表した。

川原大使は、「本プロジェクトは食糧危機に対応する収益性と持続性を備えたモデル・プロジェクトとして開始した。同プロジェクトは気候変動による旱魃被害を受けているバハ・ベラパス県サラマ市、ラビナル市及びクブルコ市、エル・プログレソ県サナラテ市及びサンサレ市、ハラパ県ハラパ市、サン・ペドロ・ピヌラ市及びサン・ルイス・ヒロテペケ市における計52集落で行われた。」と述べた。

（本プロジェクトにおいては）大統領府企画庁（SEGEPLAN）が、貧困率の高さやその他生活環境に鑑み約8千人の農民が居住する（計52の）集落を（プロジェクト・サイトとして）選択した。

初年度である2013年に住民の関心や能力に関する調査を行った上で、60名に上る各集落の指導者的人物及び42人のUtz Che'職員によって実行可能な提案を考慮した後、（住民に対する）研修活動を開始した。

収穫量の改善

持続可能な技術と低コストを伴う活動によって（プロジェクト・サイトにおいて）トウモロコシ、フリホーレス、キャッサバ、サツマイモ、コーヒー及び料理用バナナの収穫量が増加し、収穫量がプロジェクト前と比べ110%増加した集落もあった。

レジェス Utz Che'副代表は、「プロジェクトの指針の一つは、継続した情報、相談に対応する期間、各地域における先祖伝来知識を再認識し廃れてしまうことを防いだことである。」旨述べた。

本プロジェクトは様々な分野に及び穀物の栽培、ハチミツ、コーヒー及び品種改善された種子の生産、水の確保や小規模灌漑システム等含まれる。また、プロジェクトの一環としてより効率的な農業活動、有機栽培や収穫された穀物の保存方法についても研修が行われた。また、本プロジェクトにおいてはグアテマラ農牧食糧省農業科学技術研究所（ICTA）の支援もあった。

世界銀行のメリー・ゴンザレス本プロジェクト担当者は、「本プロジェクトにより地域住民が学んだことは指数関数的に増加しており、プロジェクトの結果は印象的である。」と述べた。

本プロジェクトは本年5月まで継続され、その後は各集落が2013年のプロジェクト開始以来行われている活動の継続に関する責任を担うこととなる。